

平成25年度 市長と語る市政懇談会 幡豆地区 会議録

日 時 平成25年8月27日（火） 午後6時30分～8時30分

場 所 幡豆いきいきセンター（つつじホール）

出席者 町内会長始め団体の代表者36名、自由参加31名

市議会議員

鈴木武広議員、渡辺信行議員、大塚久美子議員

市 側

市長、神谷副市長、小島副市長、教育長、企画部長、福祉部長、

地域振興部長、建設部長、上下水道部長、教育部長、消防長、

総務部次長、子ども部次長、環境部次長、市民病院事務部次長、

幡豆支所長

進 行 鳥居辰夫 代表町内会長 <東幡豆小校区>

提言件数 18件 自由意見 3件

【市長あいさつ】

皆さま、こんばんは。お元気で何よりです。市長の榊原康正でございます。今日は、幡豆中学校区の市政懇談会を開催しましたところ、たくさんの皆さまにご出席をいただきありがとうございます。

今、いろいろ夏のイベントを行っておりますが、幡豆といえば、7月に行われましたストーンカップがございます。これも本当に多くの出場者が出場していただきまして、夏の風物詩として定着をしまっておりまして。今年は私もいかだを漕がさせていただきました。

何と言いましても幡豆で一番大きな祭りは「鳥羽の火祭り」ではないかと思っております。この伝統的な祭りが、全国規模で行われる「日本の伝統まつりポスターコンクール」で大賞を受賞しました。全国一でございますのですごいことだと思っております。この地区には四季折々の素晴らしい花や色々な風景が見物できます三ヶ根山があり、観光には非常に有利な土地です。それと「愛知こどもの国」が幡豆に定着しまして随分と年月がたっております。一時、愛知県も施設を廃園したいというような意向でしたが、県政100年を記念して造られた施設であり、県にとっては重要な施設でございます。絶対になくすようなことはいたしませんので、どうか皆さま方も大きなご支援をお願いしたいと思います。

今申し上げましたように幡豆地区で一番残さなければならないのが愛知こどもの国、そして名鉄西尾・蒲郡線でございます。これは、この地域の発展に欠かすことのできない大切な路線です。先週の日曜日、鶴城丘高校の生徒たちが「JAZZ列車で行こう♪」ということで西尾駅から蒲郡駅までジャズを演奏しました。大村知事にも西尾駅から吉良吉田駅まで乗っていただきました。この路線は将来、名鉄にとって欠かすことのできないドル箱になる可能性が十分あると思っております。これは我々で乗って残すということで、蒲郡市といろいろな企画をお互いに計画をし合って「何としても残していこう」と取り組んでいますのでよろしく願い申し上げます。

それと今、市役所のやっていることが、情報発信してもなかなか市民の皆さまに伝わっていないことがあります。十人ぐらいの方がお集まりいただければ、「市ではこういうことをやっています。」と説明に出向いたり、皆様の生のご意見をお聞きしたりする機会をつくっておりますので、市役所へご連絡いただければと思います。

合併をいたしまして3年目を迎えているわけですが、西尾市は市制60周年という節目の年でありまして、50を超える記念事業を行っている最中でございます。どうか皆さまの大きなお力でぜひ盛り上げていただくことをお願い申し上げます。

私は、市政運営の基本理念に「融和」と「協働」を掲げております。「融和」というのは新しい市ができて、お互いにいつも心が通じる関係を早くつくり上げたい。「協働」ということでありますが、今、行政でできることには限りがございます。今からはいろいろな行政需要が出てまいります。そういった場合に市民の皆さまのお力をお借りしまして、共に良いまちづくりをしていこうということでございます。

それでは、皆さま方のご意見ご要望をお聞きしたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

【代表町内会長あいさつ】

皆さま、こんばんは。東幡豆小校区代表町内会長の鳥居です。本日の市政懇談会を開催するにあたり榊原市長を始め担当部署の方々に多数ご出席いただきましてありがとうございます。

当地旧幡豆町が西尾市と合併してはや3年になりますが、こうした市政懇談会は今回が2度目となります。今日ご出席の各町内会長及び各団体の方は、日頃市政に対して意見要望があると思いますが、市の幹部の方と直接意見交換ができるこの機会を十分に活用していただき、今後のより良いまちづくりに生かしていただきたいと思っております。

【意見・要望と回答】

1 鹿川組町内会長

○ 旧幡豆町地内における観光産業の育成、発展について

この地域からの名鉄の観光産業の撤退、猿が島とかうさぎ島、三ヶ根山の回転展望台等)を皮切りに、愛知こどもの国の存廃問題など、観光産業がジリ貧になってきております。今後の高齢化社会をにらみつつ、自然豊かな風光明媚なこの幡豆町の特性を生かし、癒しの観光地として、活性化を図っていったらどうでしょうか。例えば、田舎暮らしを前面に出しました都会からの体験型週末農場の推進、この地域のアサリを使った料理とか油菓子などのB級グルメの推進など色々あるかと思えます。拠点となる施設、例えば、道の駅とか観光センターの整備や現地案内板の設置、観光客への有償無償のサービスなど、西尾の奥座敷としての機能を持つ事でこの地域が活性化できれば、いいと思っておりますがいかがでしょうか。

地域振興部長／幡豆地区には、三ヶ根山、こどもの国、^{まえしま}前島といった豊かな観光資源がたくさんあります。市や観光協会では、当市の観光の「東の玄関口」として、来訪者や観光客の誘致に努めております。

現在、三ヶ根山では、アジサイフェスティバルや秋色フェスティバルなどのイベントを通して集客を図るとともに、山頂からの三河湾の眺望を楽しんでもらえるよう、積極的にPRをしております。また、幡豆小学校や東幡豆小学校の児童の皆さんに、アジサイの植栽を手伝っていただき、地元の観光資源に愛着^{じょう}を持っていただけるよう、取り組んでおります。

前島は、市内を代表する潮干狩り^{じょう}場です。珍しい「トンボロ現象」とともに、東幡豆漁協のご協力をいただきながら、PR活動をしております。

さらに、こどもの国につきましては、現在、施設の管理を行っております公益財団法人愛知公園協会と連携し、観光協会ホームページでのイベント紹介やマスコミへの情報提供などを行い、利用促進に努めております。

今後、新たな観光の拠点施設を整備することは考えておりませんが、現在あるすばらしい観光資源をさらに魅力あるように磨き上げ、交流人口の増加と地域経済の活性化が図られるよう、関係団体との連携を密にしたいと考えております。

鹿川組町内会長／幡豆地域の観光は蒲郡と一帯となっています。ぜひとも、蒲郡と一帯となった観光政策をお願いします。

地域振興部長／蒲郡市も現在、観光協会の方で旅行社のOBの方に来ていただいて田原町ですとか蒲郡市、南知多町、篠島、日間賀島、佐久島、三河湾といった所で「GO GO 三河湾！」という新しい取り組みをしております。この地域一帯として観光PRに努めている状況です。

○ 愛知こどもの国を来年度NPO法人フロンティア西尾が運営をされていかれませんが、西尾市としてはどのような関係をもたれて行かれるのか

NPO法人フロンティア西尾が来年度運営をされることは、新聞等で知らされておりますが、どのような目的とか、方向がわかりません。西尾市としては、そのようなことに口を挟むことではないと思いますが、市内にある大きな施設ともうまく付き合っていかなければならないのではないかと思います。

昨年度、ライオンズの植樹祭、市民駅伝大会など催しが行われるようになりましたが、NPO法人のみの運営となった場合、どのように対応をされるのでしょうか？ 車社会の現代と言われてはおりますが、愛知こどもの国が栄えることは、市が補助金を出されている名鉄電車の利用者も増えて、名鉄沿線に住む住民としても存続が市民の大きな税負担とならないようにしたいものです。

市長／「愛知こどもの国」につきましては、県の行政改革・重点プログラムの中で、廃止も含めた施設の見直しが示されました。突然の発表でしたので、地元の皆さんも、さぞ驚かれたことと思います。さっそく地元の皆さんが廃止反対の署名を集めていただき、12,000人を超える署名を私に届けてくださいましたので、私は直接、大村知事に手渡しまして、存続の要望活動をしてまいりました。本年2月に発表されました「愛知こどもの国の見直し案」では、「地元の積極的な関与のもと、維持費の軽減を図り、当面は県立の児童遊園として全体を維持していく」こととされました。

NPO法人フロンティア西尾では、効率的な運営管理により経費削減を図りながら、施設の維持存続と活性化に努めていくお考えでございます。

施設につきましては引き続き、県が継続して運営することとなりましたので、市といたしましても、様々な手法を使って、貴重な地域資源であります「愛知こどもの国」の活性化に努めてまいります。

具体的には、積極的に市主催行事等の会場として活用するほか、フロンティア西尾、県、地元商工団体の皆さんと連携することで、名鉄西尾・蒲郡線と併せた利用促進に努めてまいりますので、よろしく願いいたします。

洲崎組町内会長／市長から回答いただきまして、ありがとうございます。洲崎組町内会といたすのは、愛知こどもの国と名鉄電車にはさまれた南の所の町内会で、名鉄沿線の方々の心の頼りといいますか、40数年になりますが、何一つなくすことのできない施設だと思っております。市の方からも応援をしていただけたらありがたいと思っております。

3 工業団地町内会長

○ 防犯強化を依頼

最近、空き巣についてよく耳にしまして、知人宅でも空き巣に入られたということをよく聞きます。それに対して行政としてどういうふうに取り組まれているかお伺いしたい。また、そういう時に頼りになる派出所が不在というのをよく目にしますので、行政として何か対応しているのかお伺いしたい。

地域振興部長／最近の犯罪は非常に多様化してきております。6月末現在の年間空き巣発生件数は県下で最も多く大変厳しい状況でありました。その後には犯人グループの一部が検挙されたことで、6月末以降の発生件数は激減しております。

今年に入って空き巣が多発し、市では広報に合わせた回覧物の配布、ホームページへの掲載、施設へのポスター掲示などを行い注意を喚起しました。そして、緊急を要する場合には、旧3町に設置の防災無線の使用や防犯パトロール車による巡回を強化し、注意を呼びかけるなどの対策を行いました。

市民の皆様には防犯意識を高めていただくことが重要でございますので、こうした対策によりまして、犯罪の発生を少しでも抑制できるよう、今後も引き続き、同様の対策をしてまいりたいと考えております。

また、派出所が留守になるというお話もございましたが、巡回等の強化や駐在員の不在につきましては、市・警察とも限られた人員の中で職務を忠実に遂行しております。市民の皆様には、「地域の安全は地域で守る」という防犯の基本理念を維持していただくために今後、継続した啓発活動を行うことが大切であると考えておりますので、ご理解をお願いいたします。

4 山口町内会長

① 各町内会の防災

幡豆地区は、津波の被害の少ない高台に公民館等がたくさんあり、防災器具とか防災食品を保管するのに適していると思っています。10日間ぐらいの備蓄が町内会全員にもしくは、町全体に渡るようにできればと思います。防災ヘリポートはどうでしょう。

② 道路の充実

耐震強化した橋を通過して西尾の中心部へまっすぐ走って行ける。交通アクセスを良くして、国道23号や国道248号にも早く行けるような道も完備してほしいと思います。

③ こどもの国の存続

こどもの国は、高台にもありますし、防災設備の拠点にもなります。駐車場もかなり広く、各種イベント、防災等々の拠点として、幅広く使ってもらったらどうでしょうか。

④ 幡豆公民館と支所等での分煙ルーム設置

幡豆公民館と支所等での分煙ルームをできれば設置してほしい。

⑤ 公民館予約について、諸団体（公共の）は、半年前に許可してください。

公民館の予約について、公の団体、例えば町内会長の会議等は、半年ぐらい前から予約できるようにしてください。

①総務部次長／この地域は大変地盤が固く高台にございますので安心して住める町ではないかと思えます。現在、幡豆支所には、防災行政無線など、いざという時の緊急設備を完備し、3階には、飲料水と非常食、若干毛布なども備蓄をしております。また、ヘリポートにつきましては、広い場所が離着陸に必要なものですから、何十年も前から場所が決まっております、緑ヶ崎野球場ですとか東幡豆小学校、幡豆小学校、幡豆中学校等6カ所を緊急時のヘリポートとして指定をしております。

②建設部長／幡豆地区より西尾の中心部へ行ける道路として、都市計画道路西尾幡豆線がございます。本路線は全長8.2kmのうち、既に6.7kmが開通済みで、現在、吉良町木田から鶴ヶ池町の間1.5kmを愛知県にて施行中で、既に用地買収に着手しています。本区間には矢作古川を渡る橋梁もあり、多くの事業費が必要となりますが、早期開通を引き続き県へ要望してまいります。

また、国道23号へのアクセス道路として、県道幸田幡豆線の整備を吉良町宮迫^{みやぼ}地内（やすらぎ苑南）で進めていただいています。

西尾市としましても、寺部地区海岸部より国道247号へのアクセス強化のため、都市計画道路中部幹線（幡豆支所東側）の整備を進めています。

③総務部次長／こどもの国が高台にございますので、防災備蓄拠点や災害時の拠点など、幅広い活用をということでございますが、現在、幡豆地区の災害時の拠点は、幡豆支所としております。

こどもの国につきましては、愛知県の地域防災活動拠点として指定されており、自衛隊活動等の大規模な応援を受け入れる場所としての活用を考えております。

なお、こどもの国の存続に関しては、先ほど2番目のご意見でお答えしたとおりです。

④幡豆支所長／幡豆公民館、幡豆支所等での喫煙は、受動喫煙を防止する観点から建物の外でお願いしております。現在のところ、分煙ルームを設置する考えは持っておりません。

⑤教育部長／公民館の予約につきましては、西尾市公民館運営要綱により、利用団体の区分により利用受付期間が1か月前、2か月前、3か月前と定めております。

ただし、特別な理由により、受付期間以前に予約が必要な場合は、特別な利用許可申請書を提出していただき、所管する生涯学習課で内容を確認いたしまして、事前予約が必要と判断した場合は、予約することができます。

詳細につきましては、幡豆公民館又は生涯学習課へお問い合わせくださいますよう、お願いいたします。

山口町内会長／④公民館の分煙の件で、灰皿は設置してもらえますか。

幡豆支所長／幡豆支所も公民館も灰皿は用意してありますので一声かけてください。幡豆支所は建物の裏口にありますので、ご利用ください。

5 本郷組町内会長

○ 成人式の開催について、次回より西尾市総合体育館での一か所開催との話ですが、その目的・意義は？

その背景は、そんな情報が入った時に若者たちの声をちらっと耳に挟んだのですが、成人式は中学校卒業以来、バラバラになった同級生が集う非常に良い機会です。西尾市全体で行うとせっかく集まった割には会えないかもしれず、さびしいなという声を聞きました。

もう一つ、経費等の問題で「統一的にやった方が効率的であるし」という意見もありますが、市長のあいさつ等はネットを使って同時配信できる時代ですので、活用したらと思います。

もう一つは、出席する女性の方は、振り袖を着るとかで、朝4時か5時から美容院に行ってお風呂に入りますが、一か所に集まると周りが渋滞して、さらに1時間早くやらなければいけないのではないかと思い、私は分散開催の方が良いと思い質問しました。

教育部長／成人式は、「はたち」を迎えた新成人の皆さんが、将来の輝かしい担い手としての自覚を持っていただき、社会人としての責任ある行動がとれますよう激励するとともに、祝福することを目的としています。

したがって、新成人の皆さんの門出を直接祝福することができる一か所開催は、理想的であると考えています。

西三河の9市におきましても、豊田市以外は全て一か所開催となっております。

一か所での開催と中学校区単位での開催とでは、それぞれ一長一短はございますが、経費や会場の問題等もあり、新成人の代表者で構成しております実行委員会で協議をしていただいた結果、一か所開催という結論に至りました。

ご指摘をいただきました交通渋滞や式のまとまりなど、心配される問題もございますが、問題の解消に向けて検討してまいりますので、ご理解くださいますようお願いいたします。

本郷組町内会長／経費の問題等は十分理解しておりますが、今非常に景気の悪い時代です。行政サイドから色々な面で経費を使ってもらって地域が少しでも振興していただくようにするのも、一つの手かなと思います。

先ほど申しました出席の方が朝早くから支度をして、やっと思った方がいいけど駐車場がないとか、そんなことが絶対ないように十分な対応をお願いします。

教育部長／先ほどお答えしましたように心配される問題がいくつかございますが、解消に向けて実行委員会も検討していただいておりますので、ご理解くださいますようお願いいたします。

6 はずおやじたあの会

○ はずおやじたあの会に参加できる時柄があれば、どんどん情報を流してほしい

はずおやじたあの会は、設立3年目を迎える若い団体で、毎年何かをやろうぜというお父さん、お母さん方が集まって、色々協力できることがあれば、やっていこうということで動いております。

去年もこどもの国であった植樹祭ですとか、今年も市制60周年記念の「たくましい西尾っ子大会」のお誘いがありましたので参加して、子どもたちのために色々コミュニケーションを図っていこうと頑張っております。

今後も私たちの方で協力できるような機会があればその情報を流していただいて、1年限りでなく、毎年できるようなことがあれば協力したいと考えています。

地域振興部長／日ごろは、西尾市の子供たちのために、積極的にご活動いただき、ありがとうございます。

市から情報提供させていただくということでございますが、市では、現在、インターネット上で「にしお市民活動情報サイト」を運営しております。このサイトは、西尾市ホームページからも渡っていくことができ、西尾市内で開催されるイベントやボランティア募集など、様々な情報が公開されております。

「にしお市民活動情報サイト」に団体登録していただくことで、自分達の団体のイベント案内や活動報告などを、広くPRすることができますので、是非登録をご検討ください。

また、アクティにしお（にしお市民活動センター）では、活動をしたい方と活動をしてほしい方を結び付ける業務（マッチング）も行っております。活動したい内容等を事前にご連絡いただければ、アクティにしおで活動してほしい情報が把握でき次第、ご紹介させていただきます。是非、ご利用いただきたいと思います。

○にしお市民活動情報サイト <http://nishio.genki365.net/>

○アクティにしお（にしお市民活動センター）西尾市鶴ヶ崎町6番地2 電話56-3923

7 東幡豆区会 区長

○ 名鉄西尾・蒲郡線の存続について、対策をお願いします

東幡豆町の地域の主要公共交通機関としまして、利用者の約半数を占める学生や高齢者など交通弱者の日常の移動手段として使っております。また、環境保全、地域経済の活性化という観点から必要不可欠な路線です。「今後も引き続き乗って残すべく利用促進に全力を尽くします。」と榊原市長は言っておられました。大変ありがとうございます。そういう中で財政支援も平成27年度までの3年間延長していただいたことも非常にありがたいことであります。3年間いいわけですが、乗客数の推移を見ても少し増えていますが、なかなか増えていきません。今後、市の方も2年半後（28年度）、こういう形でいけるかどうか。東幡豆に「東幡豆名鉄電車存続のための利用促進の会」を立ち上げ、40名近く集まり応援しています。今後の対策は大変だと思いますが、今考えてみえることを聞かせてください。

市長／市では、名鉄西尾・蒲郡線の存続は、最重要課題の一つと捉えております。路線の存続に向けては、愛知県や蒲郡市、にしがま線応援団をはじめ、西尾市全域で取り組んでいるところでございます。

当地域におきましては、にしがま線応援団に「東幡豆名鉄電車存続のための利用促進の会」と「NPO法人 幡豆・三河湾ねっと」が加入していただき、「片道電車のちょこっとウォーキング」や「友引市」など、日々利用促進に向けた活動にご尽力をいただいております。

この場をお借りしまして、厚くお礼を申し上げます。

この問題を解決するには、やはり、この路線に乗っていただくしか対策はないと思っております。「乗って残す」ことが最良の方法であります。

なかでも蒲郡線は、乗車人数が減少を続けておりますので、皆様もぜひ、存続の危機であることをご認識いただき、一人でも多くの方に乗っていただくよう、呼びかけていただきたいと思います。

考えております。今、市の職員にも「可能な限り電車で通勤をしてほしい」と電車通勤を奨励しています。それと私も色々な会合へ出まして、「とにかく東京方面へお出かけの際には、蒲郡まで名鉄蒲郡線に乗っていただいて豊橋からひかりに乗っていただきたい。」とお願いしています。利用しますと、電車のすばらしさがわかります。これを習慣にするように。電車がいかに便利で安心で安全であるかということをお客様も絶えずお伝えいただけたらと思います。それともう一つ、私は沿線のまちで魅力的なことをやっていただきたいと思います。友引市ですとか随分と西尾からもおみえです。色々な企画を皆さんで是非、お立ていただいてこの地域の盛り上げをお願いしたい。

区長／沿線には市長が言われたように非常にいい素材があります。西尾にも吉良にも。吉良では、吉良の仁吉、尾崎士郎、吉良上野介、饗庭の不動山、幡豆町も潮干狩り、子どもの国とそれぞれ大きな素材があるわけです。それぞれの春夏秋冬を名鉄用のプログラムに。みかん狩りとかプロデュースして発信を。財政を出していくのが大変だと思いますが。

もう一つは、高齢者が市にたくさんみえますので、健康のためにも散歩していただくような方法。もう一つが学校も。小中学校ですね。鶴城丘高生によるJAZZ列車とかありましたが、統一的に発信できるような形、学校でこどもの国を使った野外授業をするなど電車を利用していかないと増えないのでは。総合的なプロデュースをして発信していただけたらと思います。

8 1 番組町内会

① 旧幡豆町歴史民俗資料館存続について

旧西尾市には岩瀬文庫という有名な文化遺産がございますが、幡豆の歴史民俗資料館は、先人がこつこつと足を棒にして、旧家が廃棄するようなものを活用できたらということで、資料館へ提供されたものと聞いています。来年度閉館すると伺っておりますが、あまりにも早くそのような資料が目の目を見なくなることが残念ですが、今後どのようにされるのかお聞きします。

② 一般選挙投票に関する期日前投票所開設について

選挙の期日前投票所が本庁1か所になりましたが、各支所で投票が出来るようにしてほしい。

① 教育部長／現在、西尾市では、次世代への負担を少しでも軽減するために、将来の人口規模や財政規模に適した公共施設の総量にするため、段階的に施設を縮減する取組みである公共施設再配置を進めています。

幡豆歴史民俗資料館につきましても、昨年8月に、市民のかたと学識経験者等で構成する公共施設再配置検討ワーキンググループで、展示物を他施設へ移し、建物の用途は文化財の収蔵庫とするなどの再配置方針案を検討しました。

今後、閉館するかどうかも含め、最終的な再配置方針につきましては、今年度末に策定します（仮称）西尾市公共施設再配置実施計画の中で、具体的に明示させていただく予定ですが、後世へ継承するための資料の収集や保存、また、市民の皆様には郷土の歴史や文化を紹介し、理解を深めていただくための展示などが効果的に実施できるように、効率的なスペースの活用方法や保管スペースの確保を検討してまいりますので、よろしく申し上げます。

② 総務部次長／現在、西尾市選挙管理委員会では、費用対効果及びコスト削減を重要視している

ことと、旧幡豆郡3町だけではなく、西尾市全体のバランスを考え、期日前投票所を本庁1か所に設置しております。

また選挙は、選挙期日(投票日)に投票所において投票することが大原則でございますので、期日前投票所はあくまでも補完的な制度であります。

皆様にはご不便をお掛けすることになりますが、ご理解、ご協力をお願いします。

9 2番組町内会長

○ 消防団について

この質問をするきっかけになりましたのが、消防団員の入団のお願いに行くことになりました。私自身消防団の経験がありませんので、何も知らずに入団を勧めても説得力がありません。インターネットで調べたら、「街の消防団」という記述(愛知県作成)があり、読んでみますと西尾市の消防団の歴史が書かれており、その中で西尾市は長く消防団がないことを知りました。そういうことで質問をします。

現状の西尾市は旧幡豆郡3町の一色・吉良・幡豆の消防団が再編成され、西尾市消防団となって約300名の一般の方々が日々活躍されていると聞いています。

旧西尾市には消防団がないようですが、旧幡豆3町のような消防団に替わる組織はあるのでしょうか。また、西尾市として統一した消防団を組織する予定はありますか。市の消防団のあり方について、市の今後の進め方についてお伺いいたします。

最後につけ加えますと消防団員のなり手が非常に少なく、町内会長としては一番の悩み事です。

消防長／旧西尾市は昭和37年に消防団を解団する際に、新たに水防団及び警防団を組織しました。現在も12分団、定数253人の水防団及び警防団が存在しております。

その任務ですが、水防活動事案につきましては、西尾市水防団及び警防団に関する規則の定めるところにより出動し、他の災害にあっては、災害の種別及び規模に応じて、消防署が必要とし、消防署が要請した場合、消防署への協力のために、各分団単位で部隊編成し出動するものであります。装備につきましては、消防団と異なり、詰所や消防ポンプ自動車を与えられておらず、僅かな救助器具(金てこ、のこぎりなど)のみを使用することができます。

合併を機に、市内に「消防団」と「水防団及び警防団」の2つの非常備機関が存在することとなり、将来的には何らかの形で統一していくべきであると考えておりますが、その方向につきましては現在模索中であります。

今後の消防団のあり方についての方針ですが、消防団は火災や風水害に対する即時対応力、地域密着性、大きな要員動員力などを有しており、平常時においても地域の火災予防活動、各種行事における警戒活動など、地域コミュニティにとって欠かせない存在であり、西尾市にとって重要かつ必要な組織であると認識しております。また、大規模災害の発生が危惧されているこの地域におきましては、特に消防団、消防団経験者の力が必要であると考えておりますので、今後も教育訓練を充実させ、組織としてのレベルアップを図ってまいりたいと考えております。

2 番組町内会長／消防団員のなり手が少ないということで、今は昔と違って自営業の方、農業の方等が幡豆町は非常に少ないです。サラリーマンの方ばかりで、頼みに行くと「僕は夜勤をやっているから駄目だよ。」とか、「僕は営業で出張が多いから駄目だよ。」とか、適齢期の方を訪ねましてもなかなか見つからず困っています。そういう点について現状のままで募集するのか。町内会長への割り当てで、うちの町内会には「3名出してください。」ということで要望されていますが、ここ2年全くいなくて、今年はどうしてもということで探していますが、見つかりません。現状の町内会の推薦で募集するのかどうでしょうか。

消防長／消防団のなり手が少なくなってきたことは伺っております。町内会長には大変ご足労をおかけしますが、地域を守るためにも団員の方が必要ですので何とかぜひ、ご協力をお願いします。

10 老人クラブ会長

○ 高齢者対策の一環として次の要望をします。

- ・ 行政組織としての「町内会」と自主組織である「老人クラブ」との位置づけは現在どうなっているか、行政の側から統一的に方向性を出していますか。出していなければ、高齢者対策として具体的な方針を出してほしい。

日頃は市の方からも老人クラブの活動に援助をいただき、ありがとうございます。

ここ数年にわたり、老人クラブに新しい会員が入らず、危惧しています。幡豆地区は、会員が去年1,300人くらいから1,200人くらいに減り、今年は1,100人くらいとなり、年々減っています。西尾市全体でも合併した当時は1万7千なんぼでしたが、今年は1万5、6千人に減りました。脱退される方もみえますが、自然減少で亡くなられた方が幡豆では約20名、西尾市全域ですと何百人かあったことと思います。

いずれにしても高齢者が元気で介護を必要としないためには、地域に溶け込んで孤立化しないという活動に率先して入りこんで元気な力を吸収し、生活を豊かにしていくことが大切だと思います。そういう意味でこの老人クラブの組織は最適です。

老人クラブの会員の平均年齢は74、5歳だと思えますが、60歳台後半から70歳台までの元気な人に入って活動を進めてもらいたいと常々思います。西尾市では65歳以上の方が約20%を占め、5年、10年先には25%になり超高齢社会に向かっていきます。

老人クラブの組織を充実させて元気力を吸収し、元気で長生きをしてもらいたい。そうは言っても老人クラブ単独では、手の届かない所もあります。一番身近な町内会も老人クラブを再認識していただいて、加入に際して援助をしてもらえないかというお願いです。行政として、老人クラブに対して町内会がどういう位置にあるのかをお聞きしたい。

他市での老人クラブに関するアンケート結果を見ますと、60歳以上で「老人クラブを知っている」という人は50%から60%みえますが、そのうち「名前は聞いたことがあるが何をやっているか知らない」という方が約80%あり、普及活動がうまくいっていないと思います。

「なぜ入らないか」との問いかけに対しては「人間関係が煩わしいから入りたくない」というのが35%くらいあり、「役員になりたくない」という意見も上位でした。

高齢者が健康で長生きをしていくためには、まず健康を維持することが必要だと思います。

ぜひ、よろしく申し上げます。

福祉部長／町内会の組織は、一定の地域に住む人々の意志に基づいて結成された任意の団体と位置づけています。また、老人クラブも地域の高齢者が自主的に仲間づくりを進める組織と位置づけています。

その中でも町内会も老人クラブもまちづくりの重要な組織であります。自主防災会、子ども会、PTAなどの教育関係団体、民生委員などの福祉関係団体等他の地域の組織と協力しあって、校区コミュニティ活動等を進めていただくことを市としては期待しております。

町内会も会員増強の一翼を担って欲しいとのご意見ですが、市としましては、それぞれの地域の町内会、老人クラブ、子ども会、PTA、その他の自主的団体と皆さんで話し合っていたいて、より良い老人クラブになっていただきたいと思いますと考えております。

老人クラブ会長／行政としては「あなたたちに任せるよ。それぞれ個別にやってくれ。」ということですね。もちろんやりますけど、現在ここに町内会長もたくさんみえてますが、老人クラブに対する意識は持っておられないかと思えます。町内会の会長をやっておられた方が老人クラブに入って役をやってくれるとうれしいです。

11 7 番組町内会長

○ 農道・幡岡線の暴走車対策

8 番組より 7 番組の寺池の間で特にひどいのが約 1 km においてセンターラインの鋸が剥かれています。対策にご協力をお願いします。

当地区には西山の企業庁の山ですが、中腹に幡岡線が走っております。以前は寺池より上かみが二輪車の暴走族のドライブコースになりまして、雑誌にも載ったぐらいでそれ以降は看板により交通規制され、走らなくなりました。しかし、寺池より下しも、八幡から寺池にかけては、以前から走っているんですけど、今年に入りまして 2 車種ほどのすごい爆音、それからブレーキをかけた状態でタイヤのきしむ音がして、私も 2 回程西尾署へ電話しています。6 月 20 日以降、ちょうど検挙された翌日に西尾署へ行き、「どうでした？」と聞いたら、罰則規定がなかなか見つからなく始末書で終わってしまうということで、懇談する中で、「8 月の終わりに市政懇談会があるなら、対策等を要望したらどうですか。」と言われました。そうこうしている中で、今月（8 月）の 16 日の深夜 0 時から 20 分程走られ、一旦消えたんですが、1 時間後の 1 時頃に再度 10 分程走っております。再度署へ外から電話をかけ、「音が聞こえますか？」と聞いたら「十分聞こえます。」ということで、「暴走対策を何とかしてほしい」とお願いしました。先日地区の集会があり、この件について私が発言したのですが、「何とかしてほしい。」という意見が結構ありました。

できれば対策としては、寺池より幸田方面につくっていただいたかまぼこ型の障害物があればスピードを出さないとします。広い所では、1 km 程センターラインの鋸びょうがパールはで剥がされ側溝にも散らばっています。暴走するために彼らがとったと思われるので、一度土木課の方も現場をよく見ていただいてご協力をお願いします。

建設部長／センターラインの鋸が剥がされた道路は、西尾市が管理している市道幡豆633号線です。センター鋸は、暴走運転いわゆる「ドリフト走行」に邪魔になるために剥がされたと、私どもも確認しております。

センター鋸の設置を検討しましたが、再度、センター鋸を剥がされることを考慮し、「ドリフト走行」を制御するグルーピング工法（舗装表面に細い溝を掘りタイヤの音を小さくする。）を行い、昨年度、暴走車対策を行いました。効果が見受けられなかったということを感じております。大変残念な結果です。

新しい暴走車対策方法が見つかるまでは、110番の通報を愛知県警にお願いします。

また、例として挙げられた「かまぼこ型の障害物」については、一般車両への事故等が心配されますので、現在設置は考えておりませんので、ご理解ください。

7番組町内会長／走った後に電話しますが15分から20分ぐらいで立ち去ります。彼らは白バイが来るのを計算しています。私は2回程電話していますが、当地区の他の人も結構電話しています。何らかの対策をたてないと、取り締まった時はいいのですが、また数カ月たてば走ります。再度検討をお願いします。

建設部長／現時点では、対策を持ちあわせておりません。構造物で障害物をつくると今度は、一般車両を事故に巻き込んでしまいます。110番通報することによって、実績として警察も今後、取り締まりを厳しくしてくれることを期待しています。私どもも研究をしてまいりますが、新しい方法が見つかるまでは、110番通報ということでご理解をお願いします。

12 11番組町内会長

○ 幡豆支所（出張所）の存続について

合併時に比べ支所の職員数が減少していることは行政改革を進める中でやむを得ないことですが、幡豆地区は本庁から直線距離で10km以上離れているところが大半です。市長が掲げております「住民との協働のまちづくり」を進める上におきましても、必要最小限な受付事務あるいは相談業務ができるような支所（出張所）の存続を願うものです。

それともう一つ、七夕災害から40年がたちます。今年は中国地方、北陸、東北、北海道の各地で集中豪雨により土砂災害が発生しております。この地域も3分の2が山であることから、土砂災害への対応が非常に重要だと思います。従いまして、住民の生命を守るため、避難命令を始めとした現場での即時対応が行政の責務でありますので、支所（出張所）の存続と地形に明るい機動力のある職員の配置をお願いします。

企画部長／幡豆支所存続のご要望ですが、旧3町の支所につきましては、2年前の合併協議におきまして、次のように確認がされております。

一つには「住民の皆様身近な窓口業務や住民の安全安心、地域振興に関する事務事業を所掌する体制とする」

もう一つは「合併後は、常にその組織及び運営を見直し、効率化に努め、規模等の適正化を図るものとする」と、このように2年前の合併時に協議が整っております。

市といたしましては、来年度から本格的に進めてまいります「公共施設再配置実施計画」の中で、施設の複合化や多機能化を検討いたしまして、地域住民の皆さんへのサービス維持と、地域の活性化に努めていく考えでございます。

職員配置につきましては、それぞれの地域の実情を踏まえながら、適切に対応してまいりたいと考えます。

13 幡豆小PTA会長

① 学校教育設備の充実

当学区の学校教育設備は、西尾地区のそれに比べて遅れていると聞いています。

大規模な工事を伴うものは、容易に着手できないことは理解していますが、同じ市域で同じ時代に育つ子どもたちには、平等な教育を受ける権利を有し、同時に教育行政は、平等な教育を提供する義務があるのではないのでしょうか。

日常、子どもたちが直接に使用する器具や設備の充実が図られ、平等な環境が整備されるよう要望します。

② 教育補助者の増強

各学級で学習や生活の面で特別な支援を必要とする児童生徒を支援するため、教育補助者が配置されていますが、対象児童生徒の教育の充実を図るため、現場の声に耳を傾け、より実態に即した配備がなされるよう配慮をお願いします。

① 教育部長／学校教育施設の整備でございますが、幡豆小学校は昭和48年、幡豆中学校は昭和41年に建設され、40年が経過しております。

旧幡豆町は、平成18年度と19年度に耐震改修工事や外壁塗装工事などを実施されていますが、それ以前からよく施設整備がなされており、西尾地区に比べて遅れているとは思っておりません。

しかしながら、個々の施設や設備など、老朽化しているものもございますので、その状況等を考慮し、整備を進めてまいりたいと考えております。

② 教育長／特別支援教育補助者であります。今年度は、市内の小中学校に臨時職員として50名を配置しております。

特別な教育的支援を必要とする児童生徒の障害の「種別」や「程度」は様々で、特別支援学級（現在、西尾市の小中学校で70クラス、221人）を始め、この学級以外の通常の学級に在籍する児童生徒の中にも支援を必要とする子どもたちがいます。

児童生徒一人一人の特性に合わせた指導、支援を行うことで、落ち着いて学校生活ができるようになるわけですが、時には対応に苦慮する場面もございます。

このため、学校現場の意見や保護者の皆様のご意見をしっかりお聞きし、連携をとりながら児童生徒の指導にあたっていきたいと考えております。

今後も障害のある子どもへの理解を深め、適切な指導、支援を行うことができますよう、研修会等を進めるとともに、学校の現状に即して特別支援教育補助者を配置できるように努めていきたいと考えております。

幡豆小PTA会長／今後とも現場に耳を傾けて、教育行政を推進していただきたいと思います。

進行／まだまだ意見・要望が残っておりますが、自由な意見交換の時間に移りたいと思います。

この後、発言される予定だった方には申し訳ございませんが、意見・要望（No. 14～18）は、市から回答を書面でいただきたいと思います。

それでは、自由な意見交換の時間に移らせていただきます。

※ No. 14～18 は、19 ページ以降に【文書回答分】として掲載しています。

【自由発言】

I 市民 I（幡豆中学校区） ←（ ）書きはお住まいの中学校区

○ デマンドタクシーを旧幡豆町がやっていた移送サービスのような形にしてほしい

旧幡豆町でやってきましたふれあい号の件でお願いします。市としてデマンドタクシーをやってもらっていますが、これでは本当に弱い動けない人が病院とか買い物に出られないような状態ですので、何とか前に幡豆町がやっていたような移送サービスの形をお願いします。

それから各支所においてある車椅子仕様車を土曜日も日曜日も貸し出しをお願いします。

地域振興部長／デマンドタクシーも10月から走らせておりますが、これもご負担があります。

利用される時に駅までという運び方でございますが、もう少し改良の余地があるのかなと思います。今、公共交通基本計画を策定しており、その中で検討していきたいと考えております。

市民 I／検討委員会をやる時に福祉を進める会も同席したいのですが。

地域振興部長／もうすでに地域の公共交通協議会がスタートしておりまして、幡豆町の方もこのメンバーに入ってみえます。ご意見等ございましたら、その方をお願いしたいと思います。

福祉部長／ふれあい号はどういうものか教えてください。

市民 I／家から病院までとか、家からスーパーまでとか往復してもらえます。西尾市と合併して廃止になりました。何とかしてもらえないか市にお願いしたらデマンドタクシーになった。これですと家から駅までしか送ってもらえない。駅で降ろされて「電車で行ってください。」と言われても動けない障害者は困ってしまう。何度か市へ陳情していますが。

福祉部長／福祉タクシーのご利用は。

市民 I／福祉タクシーを東幡豆の家から電話をかけてお願いすると、距離があり、あまりいい顔をしてやってもらえない。市民病院までタクシーを2回ほど頼みましたが、普通の半額ぐらいでその時その時で料金が変わる。

福祉部長／福祉タクシーについては市から補助金を出すので、全額ではありませんが、決められた業者とは基本料金いくらと決めておりますが、それは市の方から出すものですから、実際にイヤということはないわけなんです。もし、そういうことがありましたら、市の方に言っていただければ、しっかり業者にはその旨伝えておきます。出た分（補助対象を超えた分）については個人で負担していただきます。

市民 I／デマンドがあるなら、何とかそちらの方で便宜を図っていただきたい。一番弱い人の立場に立ってやってほしい。

地域振興部長／デマンドタクシーで自宅から病院までいけないかというご意見でしたが、現行の

システムでご理解いただきたいと思います。

市民Ⅰ／何とかできるように市長お願いします。

地域振興部長／公共交通協議会の中で意見を申し上げまして検討させていただきます。

○ 福祉車両の貸出について【文書回答分】

現在、幡豆支所においては福祉車両の貸出が平日のみで土曜日、日曜日は利用できないので、土曜日、日曜日でも利用できるようにしてもらえないか。

福祉部／福祉車両の貸出は西尾市社会福祉協議会で行っています。

社会福祉協議会に確認しましたところ、西尾市総合福祉センターにあります本所では、土曜日、日曜日も貸出を行っています。しかし、一色支所、吉良支所、幡豆支所では、現在は平日のみであります。今後支所においても土曜日、日曜日に対応できるよう検討中であります。なお、実施時期につきましては、未定であります。

Ⅱ 市民Ⅱ（幡豆中学校区）

○ 堤防の強化について

津波・高潮に対する堤防の強化について今までの高さは3mが基準だったと思いますが、それを5mぐらいの基準にして改修できるところから改修していただきたい。それから液状化問題も叫ばれています。山口の方に床崎^{とこさき}という所がありますが、そこまで昔は津波が行ったと聞いています。海岸の整備をよろしくお願いします。

建設部長／ご心配の旨、全くもってそのとおりでございます。多くの海岸線は県の方が現在、一生懸命に順番にやっています。今日ありましたご要望を県に伝えながら、ご心配の高潮、液状化に対し、努力するように私どもも頑張っております。

Ⅲ 市民Ⅲ（幡豆中学校区）

○ 幡豆吉良の風力発電計画について

鳥羽、西幡豆に大型の風力発電の計画がありますが、今、環境影響評価というのを1年延ばして来年までですかね。またやられるということですか。中日新聞に、地域は忘れましたが350mぐらい離れた所に家がある方が低周波の被害に遭われ、訴えを起こされたということが載っていました。

以前、対象地域ということで計画の説明があった時に「住宅から600m離れた所に設定するから配慮してある。」という説明がされたが、それで大丈夫か色々な方から不安の声を聞いています。市は設置に関して決定権がないそうですが、議会でも取り上げられ、市長から「市民の健康に被害があることについては意見を言っていく」ということをおっしゃっていただいたので心強く思っていますが、今後どのようにしていくのか。私は1kmちょっと離れているんですが心配ですので、ぜひ、住民の健康被害については引き続き、意見もそうですし、報告もしていただけたらと思います。

環境部次長／350mぐらい離れた方が被害に遭われ訴えを起こされたというニュースを私も見まして、田原の方です。それで今、幡豆吉良の方で風力発電の話が進められておりましたが、現在の状況でございますが、環境影響評価の方法書というものを業者が作り終えました。これは何かと言いますと、環境調査のためにどういうことをやるかというものを決めたものでして、一般の方に公開をして色々意見をいただくことになっております。

西尾市長からも色々注文をつけました。今ご心配の振動に関してですが、5つの項目について事業者の方にしっかりやるように注文をつけております。

- ・ 低周波については、色々測定をするように
- ・ 風の影響も受けるので、風の影響も考えながら低周波を測るように
- ・ 住宅への影響を十分に評価するように
- ・ 風車の位置を決めるように

とか色々注文をつけています。現在、会社の方はどうなっているか申し上げますと、他府県でもやっており、こちらの方は1年ぐらい中断した状況です。

また、その時期がまいりましたら業者の方と十分に話しをしながら、皆様方の健康に影響のないように考えてまいりたいと思います。

市民Ⅳ／この春、私どもの町内会の総集会で反対意見がありました。と言いますのも近くに豚舎があり、1,500頭ほどいます。低周波について動物までの配慮ができるだろうか。そこら辺までの確認もお願いします。

環境部次長／方法書に対する市長の意見といたしまして「低周波による畜産への影響についても十分に配慮すること」と意見をつけておりますので、それなりの方法を考えてくると思います。

市民Ⅴ／ただ今の低周波音について最新の情報を申し上げます。和歌山県は風の状況が良く、県内に風力発電が林立している状態です。その中で日高町という町があります。西尾市に進出している業者と同じ業者でして、日高町の北側に由良町という町があります。この町には1,000kw 16台、1,500kw 5台の合計21台の風車があり、低周波音の被害者が大勢出ているということを知っております。実際に私は和歌山へ行き、被害者に話を自分の耳で聞いてまいりました。日高町の住民の皆さんは、由良町の状況をすぐ横で見えています。由良町の方は出来てから、「出来るまで知らなかった。こんなはずじゃなかった。」と言っています。日高町の方はそういう状況を見ていましたので、すべての町内会が反対をされ、業者は日高町から撤退しました。

西尾市の場合は市全体で見ますと関連する町内会が9つしかございませんので、極めて局地的な問題だと思われまます。地元の方はまだ、低周波音の怖さについてご存知でない。体験したことがないからわからないと思います。

しかし、私はこれが西尾市にできてしまったらとんでもないことになると思います。ですから市長にも、市会議員の皆さまにもそういう認識を持ってもらいたいと存じます。資料が山ほどありますので必要でしたらお持ちします。どうかこの機会を借りまして、ここにいらっしや

る皆さま方も風力発電はエコでクリーンでいいものだというお考えから「ちょっと待て、本当かな。」というふうに考えていただきたいと思います。

それでエコの風力発電の傾向としまして、洋上風力というのが話題になっています。福島県の沖にも実証するための設備がこの間^{あいだ}設置され、テレビに出ました。これから試験を始めるところですが、これはもう地面の上で人家に近い所で風力発電を造ることは無理だなということを私は業界としてもある程度認識しているのではないかと思いました。ぜひ皆さま、風力発電に対する認識をよく考えてくださいますようお願いいたします。

環境部次長／ありがとうございました。参考にさせていただきます。

【市長 閉会のあいさつ】

皆さまどうもありがとうございました。ご意見は、地域のことを真剣に考えて発言をいただいていますので、検討して、できることは可能な限り実現してまいりたいと考えております。

今、長期的な展望を申しますと、経済的なことは絶えず波がございますので、先の見通しがたちません。しかし、先の展望がたつことがございます。それは、少子高齢社会がすぐにやってくるということであります。先日、厚生労働省が発表しました数字によりますと、日本中の人口が全都道府県で減少いたします。2040年には西尾市は2万人程人口が減ります。

将来、こういった社会が間もなくやって来て日本の人口も1億人を切ってしまう。それが今、我々が抱えている現実でございます。ですから、私どもも一人でも多くの若者たちが子供をつくっていただくことを目指しておりますが、なかなか今、結婚をしない若者が多いわけがございます。私はこれは非常にこの日本の国の将来が危ぶまれていることだと思います。人間にしても、植物にしても、動物にしても、一番の本能は自分の子孫をいかに残すか、いかに優秀な子孫をたくさん残すか、これが一番大きな本能なんです。この本能さえも若者は失っている。ですからこれは本当に我々が真剣に考えて若者たちが安心して子どもを産んで育てていける地域社会をつくっていくことが、一番大事だと思います。

合併をさせていただいて非常に素晴らしい地域となりました。日本全国でこれぐらい条件に恵まれた地域はないと自信を持っております。皆さまのお力をいただきながら、新しい西尾市を良くしてまいりますので、どうかよろしく申し上げます。市の職員も一生懸命やっておりますので、どんどん皆さままで引っ張り出して、お互いに協働で良い地域をつくってまいりたいと思います。長時間ありがとうございました。

【文書回答分】

14 西幡豆区会

くるりんバスを幡豆中学校区内にも走らせて下さい

歩行が不自由な人に病院、買い物、駅まで等に行くときの便を図ってほしい。

地域振興部／合併時の住民説明会では、旧3町へ「六万石くるりんバス」の乗り入れの要望が多くの方から出ていることは承知しております。その交通空白地域対策として、昨年10月からデマンド乗合タクシーの「いこまいかー」の運行を開始いたしました。

現在、市では、「西尾市地域公共交通計画」を策定中でありまして、西尾市公共交通の基本方針を考えますと、既存の公共交通でありますバスやタクシーの領域は侵さないようにしつつ、最低限確保すべき交通サービスとして、毎日の買い物や病院等へ通院する移動手段の確保は、交通弱者にとって大変重要であると考えております。

また、利用促進を目的に各種サービスを手厚くするだけでは、公共交通の維持はできません。そのことを市民の方がよく理解していただき、自発的に公共交通を利用していただけるような気運を作り上げていくことが最も大切であると考えております。

すでに今月、計画策定のための交通実態調査や市民及び利用者ニーズ調査の準備を進めておりまして、市内地域間が不均衡とならないよう公共交通を総合的に見直してまいりますので、ご理解くださるようよろしくお願いいたします。

15 幡豆地区交通指導員会会長

○ 交通指導員を総員10人から増員してほしい（20人程度）

日々の交差点での交通指導について、人数が総員10人の為、幡豆小、東幡豆小、Aコープの3か所と限定されている。中学校周辺は手が回っていないのが現状である。西尾市主催のイベントや旧幡豆町主催のイベントでは、少人数の為、参加が義務となっている。

増員を20人程度にしてほしいという背景には、上記の事が理由であり、可能であれば、各組から一人選出していただき、各組に交通指導員が存在するのがベストである。

地域振興部／会長におかれましては、日ごろから交通指導員活動、特に幡豆地区の会長として、ご尽力いただき厚くお礼申し上げます。

さて、交通指導員の人数でございますが、合併当時の西尾市交通指導員の人口割合を基準に、一色町・吉良町・幡豆町のそれぞれの人口に当てはめて算出し、現在の定数となっております。そして組織としては、地区指導員会を置き、該当小学校区の人数割当てにより町内会長から推薦をいただき、各地域の地元の方が交通指導員になっていただくことで、人数に偏りのない人員配置となっております。

また、イベント等の開催時における交通指導員数が不足する事態がございましたら、他の地区より交通指導員の出動要請をお願いし、対応しております。

現在、西尾市には地区交通指導員数124名がおられますが、地域によって交通状況は異なり、市全域に良好な交通秩序の維持が保てない場合を除き、現時点では現行のままとさせていただきますので、ご理解くださるようお願いいたします。

16 民生児童委員副会長

○ 山林開発について

県企業庁が取得した約150haの土地開発は、いつ頃着工できる予定でしょうか。

企画部／愛知県企業庁に確認しましたところ、現在、この土地の利活用につきましては、幡豆地区土地利用県庁内検討会で検討中ということでありまして、実施時期は未定であるとの回答をいただいております。

当用地の開発は、本市が発展していくうえで重要であると考えておりますので、愛知県知事に対しまして、昨年5月に土地利用計画の作成及びアクセス道路の整備を要望いたしました。

また、利活用につきましても、現在、愛知県企業庁と西尾市で勉強会を行っております。

今後も、引き続き、愛知県に対し、粘り強く有効利用を要望してまいります。

17 はずけ丘町内会長

○ はずけ丘町内会地内、市有地の無償利用

はずけ丘町内会は、発足15年程度経過しましたが、他の町内会の様な会館（公民館）を有しておりません。

地域の協調性や様々な場面で利用可能な土地が必要と思われる。

地内南側ゴミステーション裏の市有地を無償で利用可能になれば幸いです。

尚、整備、管理も住民にて協力して行う所存でおりますので、何卒宜しくお願い致します。

建設部／本市有地につきましては、^{かいと}門内土地区画整理事業で将来に渡って緑地として使用していく土地として位置づけられており、この土地の使用目的を変更することはできません。このため緑地としての性格を損なう建物の建築などの用途で、土地を町内会へ貸すことはできませんので、ご理解を頂きたいと思っております。

18 1番組町内会

(1) 防災関係について

① 旧幡豆郡に設置されている通称お屋のサイレンは、廃止されているのでしょうか？

サイレンが廃止されていなければ、いつ点検されているのでしょうか。

西尾市の把握されている防災訓練にも鳴ることがありません。

サイレンの利点を利用するようには、と思っております。サイレンは、鳴る鳴らないというデジタル信号です。クリアーで、簡単に危険度を把握出来ますが、同報無線では、音声は、アナログ式で情報量が多いために風に流されたり、建物や山での反響で理解されにくい事が有るため、どうしてもゆっくりした放送になってしまいます。そのために切羽詰った放送は聞こえにくく、東北の震災の検証にもこの事が話題になって、いかにどのような言葉で伝えるかを議論して頂きたい。

また、旧幡豆郡には設備が有ります。是非利用する事を願います。消防署でも、毎朝8時半ごろ、始業点検でサイレン及び警笛を鳴らしています。「道路交通法により」と言われてはそれまでですが、でも、緊急で切羽詰っていることは同じです。そして、突然の点検では、混乱します。定期的な同じ時間に点検するのが良いのでは、と思っております。結果、お昼のサイレンと

いう形で行われてきたのではないのでしょうか？ 消防団に入団する前後で違いを感じていることです。

② **東海・東南海地震が近々起きるのでは、とされている中で、防災及び災害指令センター並び、食料備蓄センターを地盤のシッカリした幡豆支所に置けるようにしては、どうでしょうか。**

標高の低い所の多い一色、西尾と比べ地盤が安定で、標高の高い幡豆支所は最高ではないでしょうか。しかも、近くに中学校が有り、そこまで建物が少ないため、物資の運搬のための障害物が少ないと思います。そこから各学校までヘリコプターを利用することも可能と思います。

(2) 消防団のボランティア化に懸念

消防団がやり玉に挙がっています。確かに、常識外な事はいけません。非常勤ですが、特別職地方公務員ですから。兼職は特例で許されていますが、他の非常勤の方と違い、24時間不定期で出勤のため招集される身分です。津波や高潮等の警報時には、消防職員より大勢のため第一線で行動することになります。

また退団後は、地元町内会の防災力アップに貢献して頂くことが出来ます。それを含めた訓練と思えば多少の出費は、地域の貢献に役立つと思います。また、市長が、「自分達の命は、自分達で守ろう」にも当てはまります。

自分が消防団に入団する前は、飲めない者が勤まるかなと思いました。周りに庇って頂き無事、4年間勤めることが出来ました。そこで、飲めないからこそ、見えることもありました。年の差や職業の違いで、始めはおとなしかった人も、アルコールが入って、本音や愚痴が出て、わだかまりを消すことが出来たこと。消防団は団行動です。ばらばらでは、危険なことが多いです。一つになって行動出来るのも、消防団の良いところです。自分が消防団時代、消防団の経験をされていない人によくのんべい軍団と言われましたが、無くしてしまえば良いのにとは、言われませんでした。それが、東北の震災で多くの消防団員の命を賭けた行動と同じ期待があったのではないのでしょうか。今ひとつは、今の消防団員の多くは、会社員だと思います。よって、入団するとき自分から手を挙げた方は、いないと思います。殆どの方は、町内会長さん達によって、口説かれたと思います。中には、名前だけで良いからと言われて入った方もいると思います。今、全国的に東北の震災以降入団者が少なくなっていると聞いています。あまり堅くしますと津波や高潮警報時、海岸線の長い西尾市の樋門を閉じる人が足りなくなってしまうのでしょうか。分団詰め所は、分団長に責任を任せて使い勝手よく、集まりやすくしたのが、出勤しやすく出来ると思います。また、入団式の時、宣誓で住民の生命と財産を守るという言葉が使われていると思います。市長、議員、一般職員では、使われないか、補足的に使われると思います。ここでも、命を守るという団体であることが解ると思います。どうでしょうか、市の中心部を守るために、議員職員分団結成してはと思います。建物の混雑状況や水利確保状況、避難経路等の確認も職員の机上では、解らない事が見えます。他府県では、計画されているようです。余談ですが、訓練中での本署の火災等出動では、消防団も同時出動にして頂きたい。住民から見ますと何のための団か解らない。旧幡豆町では出動でした。訓練外、吉良町では、家屋火災は無条件出動と聞いていました。

(1) 総務部／旧幡豆郡に設置されていた通称お昼のサイレンは、すでに設備が廃止されておりますので、点検などは行っておりません。

津波警報等の緊急情報の伝達は、同報無線にサイレンの機能がありますので、こちらを運用してお伝えします。

また、各支所には、災害時などに非常配備職員を配置し、同報無線により各地区の放送ができるようになっており、非常時には、避難勧告なども可能であります。

幡豆支所の3階には、すでに約1万3千食の非常食と2千700本(500ml)の飲料水を備蓄しております。しかしながら、幡豆支所のまわりには、ヘリコプター進入の障害物があるためヘリポートとしての活用はできませんのでご理解ください。

(2) 消防本部／過去の消防団経験を踏まえ、数々のご意見をいただき、ありがとうございます。

消防団は火災や風水害に対する即時対応力、地域密着性、大きな要員動員力などを有しており、平常時においても地域の火災予防活動、各種行事における警戒活動など、地域コミュニティにとって欠かせない存在であり、西尾市にとって重要かつ必要な組織であると認識しております。

ご意見をいただきました団員確保につきましては、産業構造及び就業形態の変化、少子化などにより、全国的に団員確保が困難な状況が続いており、各種入団促進PRを展開しているものの画期的な改善が図られていないというのが現状です。西尾市においても、その例に洩れず団員確保には苦慮しており、懸念されております津波や高潮時の防潮扉の閉鎖などが円滑にできますよう町内会長などと連携し団員確保に努めてまいりたいと考えております。

また、出動につきましては、合併を機に旧3町の消防団で異なっていた出動体制を統一し、管内の建物火災、林野火災は常備消防と同時に出動指令を、それ以外のは火災の規模や状況を勘案し出動指令を出しております。さらに、火災現場での活動についても常備消防との連携・協力方法の改善を図り、出動した団員をより有効に活用できるよう努めております。

大規模災害の発生が危惧されているこの地域においては、特に消防団、消防団経験者の力が必要であると考えておりますので、今後も教育訓練を充実させ、組織としてのレベルアップを図るとともに、各分団の自主性向上を促し、分団長の考えが反映する組織にしていくなど、総合的な強化を図ってまいりたいと考えております。

今後ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。